

2011年11月29日

TOYOTA、新型「プリウスPHV」の受注を開始 — EV走行距離26.4km*¹、プラグインハイブリッド燃費61.0km/ℓ*¹を実現 —

TOYOTAは、全トヨタ販売店（全国のトヨタ店、トヨペット店、トヨタカローラ店、ネット店）を通じて、本日より、家庭用電源などから充電できるプラグインハイブリッド車(PHV)の新型「プリウスPHV」の受注を開始する。発売は、2012年1月30日からを予定している。

新型「プリウスPHV」は、電気利用車両の早期本格普及を目指して、①圧倒的な燃費・環境性能、②量産車にふさわしい高い商品性・使いやすさ、③お客様に納得していただける価格、の3点に徹底的にこだわって開発した。さらに、通信ネットワークとつながる機能を備えることにより、従来のクルマの領域を超えて新たなモビリティ社会を切り拓く可能性を提示している。

高容量・高出力な新型リチウムイオン電池の採用などにより、満充電状態でEV(電気自動車)として走行するEV走行換算距離(EV走行距離)は26.4km、EV走行とHV(ハイブリッド車)として走行する燃費を複合して算定したプラグインハイブリッド燃料消費率(PHV燃費)は61.0km/ℓを実現している。電力消費率は8.74km/kWh*¹を達成している。

また、プリウスPHVを楽しくエコに利用していただくために、人とクルマがネットワークを介して“つながる”新しいサービス「PHV Drive Support(PHVドライブサポート)」*²を全車に標準設定している。スマートフォンを通じて電池残量や充電ステーション設置場所などの情報を提供するサービスや、トヨタの販売店などに設置された充電ステーション(G-Station)を無料で利用できるサービスなど、プリウスPHVオーナー向けの5つのサービスをパッケージにして、3年間無料で提供する。

プリウスPHVは、EVとHVの2つの特性を活かし、環境性能と走行性能を高い次元で両立させている。通勤・買い物など日常での近距離は、EVとしてモーターのみで走行、休日の遠出など中・長距離は、EV走行が終わっても自動的にHV走行に切り替わる。電池残量などを気にせず、安心して乗ることができるため、お客様に選んでいただきやすい、普及に適した電気利用促進車であると考えている。

低炭素社会の実現には石油依存からの脱却が鍵であり、代替エネルギー利用促進において電気は有効な手段である。トヨタ自動車(株) (以下、トヨタ) は、「エコカーは、普及してこそ環境への貢献」との考えのもと、外部からの電気利用により、化石燃料の消費抑制やCO₂排出量の削減などの効果が期待できるPHVを、「HVにつぐ次世代環境車の柱」と位置づけており、今回のプリウスPHVの発売により本格的な普及を目指す。



プリウスPHV S



【販売概要】

1. 販 売 店：全国のトヨタ店、トヨペット店、トヨタカローラ店、ネット店
2. 販売目標台数：年間 35,000～40,000台

【生産工場】

トヨタ自動車(株) 堤工場

【メーカー希望小売価格】

(北海道、沖縄のみ価格が異なる。単位：円)

	ハイブリッドシステム	駆 動	価 格* (消費税込み)	
S	リダクション機構付 THS II Plug-in	2WD (FF)	3,200,000	◎
G			3,400,000	
“レザーパッケージ”			4,200,000	

*価格にはリサイクル料金は含まれない

◎：掲載写真

【主な特長】

1. プラグインハイブリッドならではの高い環境性能

- ▽1.8ℓ ガソリンエンジンとモーター、リダクションギヤを組み合わせたハイブリッドシステム「リダクション機構付THSII*3」を搭載したプリウスをベースに、高容量・高出力な新型リチウムイオン電池（総電力量4.4kWh）を採用することにより、EV走行距離やパワー、最高速度などEV走行性能を大幅に向上
- ▽回生充電量を増やすことで、高効率なエネルギー回収を実現し、EV走行距離の伸長や燃費の向上に寄与
- ▽高効率車載充電器の搭載により、AC200Vの場合、約90分での満充電が可能(AC100Vでは、約180分)
- ▽システム効率の改善や転がり抵抗を低減したタイヤの採用、ボディの軽量化などにより走行抵抗を低減し、電力消費率8.74km/kWhを実現
- ▽満充電状態でのEV走行距離は、26.4kmを実現。従来型車の23.4kmに比べ、3km・約13%伸長（いずれもJC08モード走行、国土交通省審査値）
- ▽EV走行とHV走行の燃費を複合して算定したプラグインハイブリッド燃料消費率(PHV燃費)は61.0km/ℓ*1（CO₂排出量は38g/km）、充電分を使い切った後のHV走行燃費は31.6km/ℓ*1と高い環境性能を実現
- ▽トヨタ独自の環境評価システム「Eco-VAS*4」を活用し、効率的に環境負荷を低減
 - ・開発初期段階から環境目標を設定し、環境影響をバランスよく減少
 - ・LCA（ライフサイクルアセスメント）を実施し、走行段階だけでなく、生産から廃棄するまでの全段階で排出するCO₂や大気汚染物質の総量を低減（CO₂排出量は、同排気量クラスのガソリン車に比べ約43%減、ベース車のプリウスに比べ約9%減。太陽光、風力など再生可能エネルギーを活用して発電した電力を利用する場合は、さらに低減可能）

<プラグインハイブリッド システム主要諸元>

エンジン	型式	2ZR-FXE
	排気量 (cc)	1,797
	最高出力 (kW[PS]/rpm)	73[99]/5,200
	最大トルク (N・m[kgf・m]/rpm)	142[14.5]/4,000
モーター	最高出力 (kW[PS])	60[82]
	最大トルク (N・m[kgf・m])	207[21.1]
システム全体	最高出力* (kW[PS])	100[136]
バッテリー	種類/総電力量(kWh)	リチウムイオン/4.4

*エンジンとハイブリッドバッテリーにより、システムとして発揮できる出力(トヨタ算定値)

2. 軽快なEV走行と走りのバリエーション

- ▽高容量・高出力の新型リチウムイオン電池による力強いモーターパワーにより、プリウスからの重量増分(+50kg)を感じさせない高レスポンスで軽快な走りを実現
- ▽発進時は、EVとしてレスポンスよく滑らかに加速し、最高速度100km/hまでEV走行が可能
- ▽充電分の電力を使い切った後はHV走行にスムーズに移行
- ▽ロードノイズやエンジン音を低減する吸・遮音材を最適配置するとともに、風切り音の低減にも配慮し、優れた静粛性を実現
- ▽標準の走行モードに加え、走行シーンにあわせて選べる「エコドライブモード」「パワーモード」を設定し、走る楽しさを追求。さらに、「EV/HVモード切替えスイッチ」により、EV走行とHV走行の選択が可能

3. 先進の次世代車にふさわしい充実の装備

- ▽プリウスの空力性能や基本装備はそのままに、プリウスPHVならではの装備を充実
 - ・充電の利便性を考え、小型軽量の充電ケーブル1本(AC200V用、5m)を全車に標準装備(AC100V用と交換可能)
 - ・開閉が容易なプッシュオープン式の充電リッドを採用。さらに、暗い所での充電に便利なLED照明や充電状態を知らせるインジケーターを設置
 - ・充電ケーブルに設置したコントロールユニットにより、漏電を検出するなど安全な充電をサポート
 - ・出かける時間に合わせた充電や、夜間電力による充電をサポートするタイマー機能を設定
- ▽快適温熱シートを全車フロントシートに標準装備。座席をすばやく心地よく温め、暖房効率向上にも寄与
- ▽充電中に車内でオーディオや冷房、快適温熱シートなどが利用できる「マイルーム機能」を設定
- ▽充電中や電池残量が規定量以上ある場合に、キー操作で冷房作動ができるリモートエアコンを全車に標準装備
- ▽より高容量な新型リチウムイオン電池の採用により、プリウスと同等のラゲージ容量を確保(ゴルフバッグを3セット収容可能)
- ▽数々の安全装備
 - ・S-VSC*⁵や6個のSRS*⁶エアバッグ、アクティブヘッドレスト(運転席・助手席)の全車標準装備や、プリクラッシュセーフティシステム(ミリ波レーダー方式)の設定などクラス*⁷トップレベルの安全性能を追求
 - ・より進化したGOA(コンパティビリティの概念を取り入れて、全方位からの様々な衝突試験に対応)
 - ・歩行者傷害軽減に配慮したボディ構造を採用し、頭部傷害軽減においてクラストップレベルの保護性能を追求
- ▽先進性をアピールするプリウスPHV独自のデザイン
 - ・フロントは、アッパーグリル部をメッキグリルガーニッシュとするとともにブルーの専用ヘッドランプを採用、リヤは、テール&ストップランプをクリアレンズで構成するなど、プリウスとの差別化を図るとともに一層の先進性を表現
 - ・台形テーマのアンダーグリルやドアハンドル、バックドアガーニッシュにシルバー塗装を施し、クリーンでプレミアムなイメージを強調
 - ・フロントサイド、リヤ、インストルメントパネルに専用ロゴを配し、PHVであることをアピール
 - ・ボディカラーは全8色。そのうち、「トゥルーブルーマイカメタリック」、「アティチュードブラックマイカ」、「ダークブルーマイカ」*⁸の3色は、プリウスには設定のないカラー

4. PHVを楽しくエコに利用していただくためのサービス

▽PHVを楽しくエコにお使いいただくため、5つのサービスをパッケージにし、「PHV Drive Support」として全車に標準設定、プリウスPHVオーナーに3年間無料で提供

1) オーナースナビゲーター*⁹

- ・スマートフォンやタブレット端末、パソコンなどを通じて、楽しみながらPHVの便利な使い方を理解できるサービス

2) eConnect*⁹

- ・車両から「トヨタスマートセンター」へ送信された情報をもとに、スマートフォンで電池残量やEV走行可能距離を確認できるサービス。他にも、エコ運転を楽しんでいただくため、燃費履歴や全国のPHVオーナー間の燃費ランキングが確認できるESPO(エコ運転サポート)、充電ステーションの位置を検索できるコンテンツも用意。さらに、メーカーオプションナビ装着車は、スマートフォンによる冷房のON/OFFや充電開始などのリモート操作も可能

3) トヨタフレンド*⁹

- ・充電や各種点検予約などを促す情報を、PHVオーナーのスマートフォンへつぶやくほか、オーナー同士でつぶやきの会話ができるトヨタ独自のソーシャル・ネットワーク・サービス

4) バッテリーいたわりチェック

- ・「トヨタスマートセンター」に送信されたバッテリー使用情報をもとに、バッテリーのより良い使い方について販売店がアドバイスを実施

5) 充電サービス

- ・全国のトヨタ販売店に設置された充電ステーション(G-Station)で1時間の無料充電が可能

▽EVやPHVなどの電動車両の導入にあたっては、家庭での電力需給管理が重要であると考え、充電を安全、効率的に行うための関連商品を開発し、トヨタホーム(株)を通じて2012年1月より販売を予定

- ・家庭用の充電機器として便利な、充電コンセント、壁掛け型充電器、ポール型充電器
- ・車両の充電と家庭内の電力消費を最適にコントロールする家庭用充電サポートツール「H2V Manager(エイチツーバイ・マネージャー)」

* 1 JC08モード走行、国土交通省審査値。SグレードとGグレードの一部
(Gグレード“レザーパッケージ”とGグレード・メーカーオプションナビ装着車は除く)

* 2 PHV Drive Support：利用には申し込みが必要

* 3 THSⅡ：TOYOTA Hybrid SystemⅡ

* 4 Eco-VAS(エコパス)：Eco-Vehicle Assessment System(トヨタ独自の総合的環境評価システム)

* 5 S-VSC：Steering-assisted Vehicle Stability Control(ステアリング協調車両安定性制御システム)

* 6 SRS：Supplemental Restraint System(乗員保護補助装置)

* 7 同排気量クラスでの比較

* 8 ダークブルーマイカ：北米と欧州で発売するプリウスには設定

* 9 専用アプリケーションのダウンロードが必要、通信料はお客様負担。

詳細は、<http://toyota.jp/information/app/index.html>

以 上